

複素関数の出欠について

桂田 祐史

2021年10月26日, 2021年11月7日

「複素関数」の出欠について、まとめておきます。

例年は点呼していますが(氏名と顔を少しでも頭に入れたい)、2021年度は非常時ルールで行います。随時見直しをします。

“出席をする”には、以下のどれかを行います。

- (i) 対面授業に出席して Oh-o! Meiji で出席を登録
ワンタイムパスワードを板書しますので、それを用いて下さい。
- (ii) 対面授業実施時に Zoom ミーティングに参加
参加方法は「シラバスの補足」に書いてあります。
滞在時間(時刻と長さ)が Zoom で自動的に記録され、教員はチェックできます。
- (iii) Oh-o! Meiji で動画を視聴
動画の公開は遅れることもあるので、(時間の余裕を考えて) 〆切は翌週末までとします。
動画ごとに視聴の履歴が残り、教員はチェックできます。
- (iv) トラブル時に学年・組・番号・氏名を書く(これは今後ないはず)

どの方法でも「出席」となりますが、Oh-o! Meiji に反映されるのは (i) だけです。(編集する機能は用意されていないので、他の方法で出席したものは反映できません。)

10月12日は、私のミスで出欠記録が不完全なので、「全員出席」とします。

出席点はつけないので、「原則 2/3 以上」ルールを満たす場合は神経質になる必要はありません。

何らかの理由(体調不良等)で出席が困難な場合は相談に応じます(例えば動画視聴の〆切を延長する等)。

何のために出欠をとるのか 出席点をつけなくても、「平均的には出席率の高い人は単位を落とすににくい」というのは正しいようなので、出席を促すことは有効である、と考えています。それと、調子を崩す人は、欠席という形でそれが見える場合が多いので、それを察知するという意味もあります。